市政あれこれ

来年の世界遺産登録を目指す「産業革命遺産」を現地調査

担当者の説明に熱心に耳を傾けていました

資産の価値や保存状態などを確認

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）の調査員が、「明治日本の産業革命遺産」を現地調査しました。

10月3日に長崎を訪れた調査員は、まず「端島（はしま）炭坑」を調査。続く4日には「旧グラバー住宅」、「小菅修船場（こすげしゅうせんば）跡」、「高島炭坑」の3資産、5日は三菱重工業（株）長崎造船所の4つの稼働資産を調査しました。

イコモスは今回の調査や専門家などの意見を基に来年5月ごろにユネスコへ登録の可否を勧告することとなっており、世界遺産委員会で最終決定がなされます。

産業革命遺産は、日本の重工業近代化の価値を現代に伝える大変貴重なものです。市では、世界遺産登録に向けて、今後も取り組みを進めていきます。

■問い合わせ　世界遺産推進室（☎829-1260）

政策評価に関する報告書提出

35人の外部委員が延べ14回の議論を交わしました

9月29日、長崎市政策評価委員会（委員長・杉原敏夫 長崎総合科学大学教授）から、市の取り組みについての自己評価や主な施策に関して、中立的・専門的な視点で議論を行った報告書が提出されました。

委員からは、政策による成果が反映される指標になるよう随時見直すこと、行政は縦割りにならずに横断的に取り組むこと、人口減少等社会の変化に応じて施策を見直すことなど貴重なご意見をいただきました。

市では今後、委員会からの意見を踏まえ、よりよいまちづくりを目指し、しっかりと政策に取り組みます。

■問い合わせ　都市経営室（☎829-1111）

路面電車を姉妹都市ブラジル・サントス市へ贈呈

長崎のまちのシンボルが海を渡ります

10月10日、長崎電気軌道（株）の浦上車庫にて路面電車の贈呈式が執り行われ、サントス市の中井貞夫市議会議長らが長崎を訪問されました。今回長崎市から贈呈された路面電車は、今後サントス市内を走り、市民に親しまれます。

併せて、龍踊りの「龍体」もブラジル長崎県人会の皆さんに贈呈され、長崎の伝統芸能がブラジルに広まるきっかけづくりとなりました。

今回の贈呈式を通して、サントス・長崎両市の絆は一層強まり、今後のさらなる交流を約束しました。

■問い合わせ　国際課（☎829-1113）